

単元・題材レベルでの授業改善

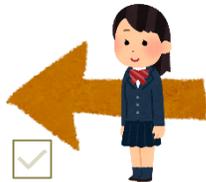
教科等の特質に応じた **見方・考え方が働く**

たとえば、**学習を進める上でのポイントや問いを立てたのに**、次のような子どもの姿を目にすることはないか、**振り返ってみましょう**。



ある

答えが出て、それが正しい理由やその意味を考えようとしない。



一面的な考えや方法でしか学ぼうとしない。

こんな姿も

この姿が生まれる理由を「**子どもの視点**」から**掘り下げて**みましょう。

教科の学習に必要な概念形成や意味を考える経験が少ないのではありませんか？

複数の考え方や学び方があることを知る経験が少ないのではありませんか？

こんな理由も

「**子どもの視点**」に立って、自分の実践を**見直して**みましょう。



「**子どもの視点**」に立って見直した内容を**交流して**みましょう。

メモ



【参考】「見方・考え方」を働かせること

深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要になること。各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。

(文部科学省「小学校学習指導要領解説 総則編」平成29年6月)

試みたいこと

「教科等の特質に応じた見方・考え方が働く」という着眼点で「**子どもの視点**」から授業づくりをする際に心に留めておきたいこと、新たな選択肢として試みたい実践などを記入しておきましょう。

(研修実施日 年 月 日 氏名)



長野県教員育成指標との関連

「教科等の特質に応じた見方・考え方が働く」は、E「教育のプロ」としての高度な知識や技能の〈学習指導〉⑦〈教材研究〉Planに関連しています。